京都文教大生による宇治商工会議所会員企業・団体紹介〔第 31 回〕
～社会人0年生の私たちが見つけた企業と地域の魅力～

2025 年 9

地域連携学生プロジェクト KASANEO × 和 Zakka 和夢兎

まちと時代、お客様に寄り添う「夢」の詰まった雑貨店

ファッションを通して多世代交流を図る「KASANEO」が、平等院表参道にお店を構える「和 Zakka 和夢兎（わむう）」の代表、古賀 則行さんを取材しました。

【和夢兎の歩み】

平等院表参道にある和雑貨店「和夢兎」は、観光客の目を引くだけでなく、地域に根ざした存在です。店名には深い想いが込められており、「和」は和雑貨を扱う店としての誇り、「夢」はかつて家族で営んでいた「夢屋古賀」から、「兎」は宇治の守り神“見返り兎”に由来します。ロゴにも兎の姿が描かれ「良い方向へ導かれるように」という願いが込められています。店主の古賀さんは15歳から家業に携わり、呉服店から寝具店、そして和雑貨店へと、時代とともに歩んできました。1994年、平等院が世界遺産に登録されたことを機に観光客が増え、和雑貨を少しずつ取り扱うようになり、お父様の病をきっかけに寝具の製造をやめ、2003年、29歳の時に和雑貨専門店「和夢兎」として新たな一歩を踏み出しました。

【想像を具現化する】

↑古賀さんデザインの「夢布タオル」

古賀さんは、頭の中で想像したことや、やってみたいことを実際に商品化されています。例えば、「もし宇治が題材の鳥獣戯画があったら」や「お地蔵さんがロックバンドだったら」といった発想を具現化した「夢布タオル」など、個性的でありながらレトロモダンな和雑貨が多くあります。これらの商品は古賀さん自身が1からデザインを考え、制作されているのです。デザインの学校に通った経験はなく、すべて独学です。元々ないものを作るのは簡単ではありませんが、「ないから作る」という発想と持ち前の器用さがあったからこそ実現できたのでしょう。古賀さんのすごさは、想像を自ら可視化し、それを商品へと昇華できる点にあります。

【それぞれのお客様に向き合って】

↑ 取材の様子

古賀さんには、観光地であるこの土地でお店をするにあたって接客で意識されていることがあります。それは、観光地でふらっと立ち寄った際にいい印象に残るかということを考えた接客です。実際に自分が観光した際に印象に残った接客を意識してみたり、外国人の増えている宇治で、翻訳アプリを使用してでも積極的にお客様とコミュニケーションを図ろうとしたりと試行錯誤されているそうです。宇治に訪れる人が良い気持ちで帰ってもらえるようにという工夫を感じました。特に印象に残ったのは、オンラインショップのお話でした。和夢兎のお店を訪れ、化粧品などを気に入ってくださった方が、自宅に戻り遠方からでも購入がしやすいようにという思いで始められました。「今はまだ、ほそぼそであっても和夢兎の商品を手に取って気に入ってくださっている方のために頑張っていきたい」とお話しされてる古賀さんのお客様ひとり一人を大事にする姿勢は、私たちも見習っていきたいなと思いました。

【今回の取材先】

和Zakka 和夢兎（わむう）
（宇治市宇治蓮華12）

昭和初期、呉服店として創業。寝具屋を経て３代目当主、古賀則行さんが和雑貨店に。平等院表参道の中ほどにお店を構え、1500品以上の魅力ある和雑貨や宇治抹茶の粉末を使用したコスメを取り扱っている。また、店主自らがデザインした柄を使用した和雑貨など、こだわりを感じる商品も多数展開している

【今回の取材担当】

地域連携学生プロジェクト
KASANEO

2018年設立。高齢者から着なくなった衣服を譲り受け、学生の私物とコーディネートし、ファッションショーや雑誌で紹介するなど、イベントや広報物を介してファッションでつなぐ多世代交流を目指している。

今回取材、記事作成を担当したKASANEOの学生たち。左から小林 茉椰さん（総合社会学部2年次生）、福田 実咲さん（総合社会学部2年次生）、安田 幸翔さん（臨床心理学部2年次生）